

学校法人京都産業大学

京都産業大学 並楽館・国際交流会館・4号館 / 京都府京都市

京都産業大学は、特定の母体に基づかず、学界はもとより各方面の志を同じくする人々の支持・支援・協力によって、1965(昭和40)年に経済学部・理学部の2学部をもって京都市・上賀茂に創設されました。

創設者(学祖)で宇宙物理学者の荒木俊馬は、「建学の精神」において、「将来の社会を担って立つ人材の育成」が本学の使命であることを掲げました。歴代の学長は、この建学の精神を根幹に、時々の国内外の情勢や社会の要請等を踏まえた「教学の理念」を確立のうえ、時代に合った教育研究体制及びキャンパスの整備を推し進めてきました。

現在では、文系・理系10学部10研究科をそろえ、約15,000人の学生を擁するに至っています。また、卒業生数は、約16万人に上っています。



並楽館 外観



国際交流会館 外観

4号館 外観

補助事業の概要

導入設備: 停電対応型GHP 56kW×22台(3施設合計)

補助金額: 並楽館 … 16,236千円(補助率1/3)
国際交流会館 … 11,012千円(補助率1/2)
4号館 … 46,546千円(補助率1/3)

災害時の設備用途: [発電] 空調へ給電(並楽館・国際交流会館・4号館)
[空調] 並楽館 … 1F食堂客席・学生ラウンジ、2F食堂ホール
国際交流会館 … 1Fメディアルーム・パソコンルーム・和室・多目的ルーム・ロビー・事務室
2F・3Fのキッチンルーム、4Fのキッチンルーム・洗濯室前室
4号館 … 2F~4Fの講義室・学生ラウンジ等の空調

対象施設	避難所面積	供給方式
指定避難所	6,255㎡ (3施設合計)	国際交流会館: 中圧 並楽館・4号館: 低圧

事業者様の声

補助金を用いた設備導入の経緯と効果

学校法人京都産業大学 管財部 西浦 匠吾 様

現在使用中の空調機の更新時期が近づいている中で、空調・衛生関係の取引業者から、補助金を活用した提案を受けました。単なる機器更新のみならず、既存設備を停電時に稼働できることが大きなメリットであることから、空調機更新に係る内容を停電対応型に再設計し、導入に至りました。これにより、該当建物の食堂フロア、ロビー、ラウンジ等が停電時に避難所として活用できるエリアとなりました。

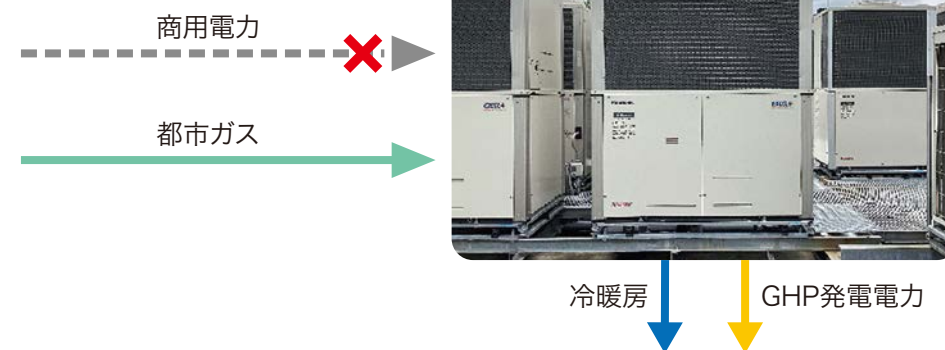
本学はかねてから指定避難所として制定されており、災害時には学生、地域住民の避難所となります。避難所となるスペースはこれまで停電時は空調が稼働しない状況でしたが、今般の停電対応型GHP空調の導入により、コストを抑えて設備導入をすることができました。

学内には中圧ガス設備が設置されています。都市ガス設備は災害に強いことも、今回の導入の決め手となりました。

災害時にも貢献する施設の役割とエネルギーシステム

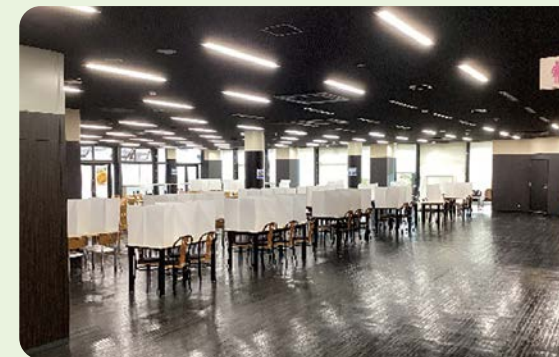
停電時の設備活用イメージ

(例) 並楽館



避難スペース(一例)

1F 学生ラウンジ

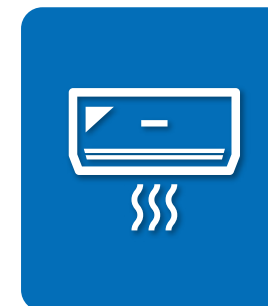


2F 食堂ホール



など

災害時にも避難所等で活用可能な設備等



空調



※画像は並楽館のものです。

協定概要

本学は京都市の指定避難所として制定されております。今回補助金を導入した建物の避難所スペースでは、災害発生時に空調等の継続利用ができる計画となっています。